株主の
皆様へ

第55期

株主通信

2022年 秋 号

2021年10月1日から
2022年9月30日まで

『西吾妻山のモンスター樹氷』

樹氷で有名なのは山形県の蔵王と思っている方も多いことでしょう。けれども、福島にも見応えのある樹氷が出来る場所があります。それが西吾妻山（標高2,035m）です。条件が揃うと4m以上にも「成長」したモンスター樹氷群の中を歩くことができます。裏磐梯のグランデコスキー場のゴンドラとリフトを利用するのが便利ですが、気軽な気持ちで行ってはいけない場所なので、しっかりした気持ちと雪山の完全な装備でお願いします。

【個人投資家の皆様へ】
詳しくはホームページをご覧ください。

https://www.asaka.co.jp/

ひと、ひと、実現する ふくしま

JPX STANDARD TOKYO
証券コード
5724

ASK 株式会社アサカ理研

株主の皆様へ

Top Message

代表取締役社長　**山田 浩太**

株主の皆様におかれましては、平素より当社の活動に多大なるご支援、ご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

ここに2022年9月期における当社の事業概況及び今後の見通しについてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の普及等に伴い行動制限が緩和され、個人消費や製造業をはじめとした企業収益に持ち直しの動きが見られました。一方で、オミクロン株の感染拡大や、ロシアのウクライナ侵攻をはじめとした地政学リスクの高まりに伴うエネルギー・資源価格の高騰、急激な円安進行など、依然として先行きは不透明な状況となっております。

当社グループにおいては、中国ロックダウンの影響による取引先の減産を受けて、貴金属の取扱い数量は前期をやや下回りました。主要製品のうち、貴金属の価格は米国金利の大幅な利上げ見通しを受け、ドル建て価格は軟調に推移いたしましたが、米国長期金利の上昇に伴う円安ドル高の影響で円建て価格が上昇したことにより前期を上回りました。銅の価格は電動車や再生可能エネルギー等の脱炭素関連需要の拡大や円安の影響を受け、前期を上回る水準となりました。

このような事業環境の中、当社グループは資源循環型社会の実現を見据えた取り組みをより拡充し、新規事業の確立及び経営基盤の強化に努めました。既存事業では新型コロナウイルス感染者数減少に伴い、対面での営業活動を再開し、取引先とのリレーション強化や独自技術を武器とした新規開拓に注力することにより、電子部品・デバイス工業分野における取引拡大に努めました。

新規事業では、リチウムイオン電池（以下、LiB：Lithium-ion Battery）再生事業の研究開発及び事業化に引き続き注力し、より効率的な製品化プロセスの確立を目指した実証実験を行っております。なお、事業スキーム構築を目的とした事業パートナーとの連携につきましては、現在も大きな枠組みの形成に向けて、複数企業とアライアンス締結に向けた交渉を継続しております。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

当連結累計期間の概況

【当連結会計年度は増収増益】

当連結会計年度の連結業績は売上高8,592百万円(対前期6.5%増)、営業利益815百万円(同94.5%増)、経常利益776百万円(同74.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益622百万円(同64.9%増)となりました。LiB再生事業の研究開発規模の拡大に伴い、研究開発費等の経費は増加いたしましたが、主要製品価格が前期を上回ったことにより、増収増益となりました。

【通期連結業績予想について】

今後の世界経済動向は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進み、製造業を中心とする継続的な景気回復が期待されますが、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大や、地政学リスクの高まり、世界的なインフレに伴う各国・地域での金融引き締め等、企業収益の悪化につながる懸念事項もあり、先行きは不透明な状況となっております。

当社グループの主要取引先である電子部品・デバイスメーカーの生産動向は、スマートフォンをはじめとした移動体通信機器の需要はやや鈍化するものの、CASEやADAS関連での量産を背景に自動車・産業機器向けを中心として堅調に推移することが期待されます。一方で、半導体の供給不足や新型コロナウイルス感染症の影響によるサプライチェーンの断裂等の懸念は、当面継続するものと想定しております。

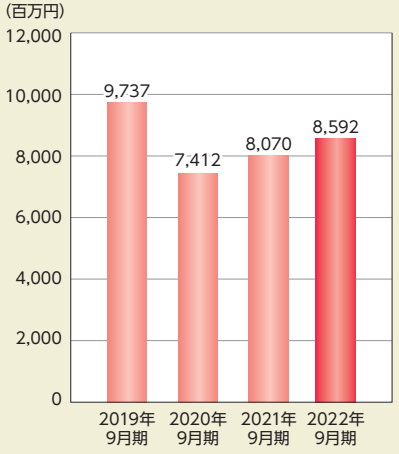
主要製品である貴金属の価格は米国の大幅利上げがドル高につながることで、ドル建てでは前期を下回る水準となるものの、円建てでは日米の金利差が意識されることによる円安が継続するものと想定し、前期同水準になるものと見込んでおります。また、銅の価格につきましては、銅の最大消費国である中国の需要鈍化や欧州エネルギー危機等により企業活動の停滞が懸念されることから、前期水準を下回るものと想定しております。

売上高は主要取引先である電子部品・デバイスメーカーの生産動向が堅調に推移することにより、貴金属の取扱い数量は前期を上回るものと想定しております。

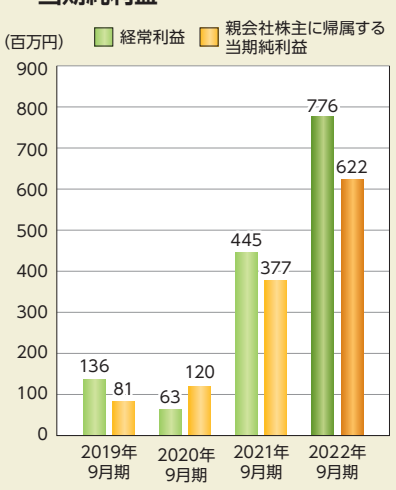
利益面では新規事業であるLiB再生事業に対する設備投資や本社リノベーションに伴い減価償却費が増加するほか、LiB再生事業での研究開発費や事業を支える人材への積極的な投資等により、費用が増加するとの想定をしております。

以上の前提条件に立ってはおりますが、現時点では当社グループを取り巻く事業環境がどのように変化するのかを合理的に見通すことが困難であることから、レンジ形式による業績予想数値とし、翌連結会計年度は売上高8,400～9,300百万円(増減率△2.2～8.2%)、営業利益330～440百万円(同△59.6～△46.1%)、経常利益310～420百万円(同△60.1～△45.9%)、親会社株主に帰属する当期純利益235～320百万円(同△62.2～△48.6%)を予想しております。

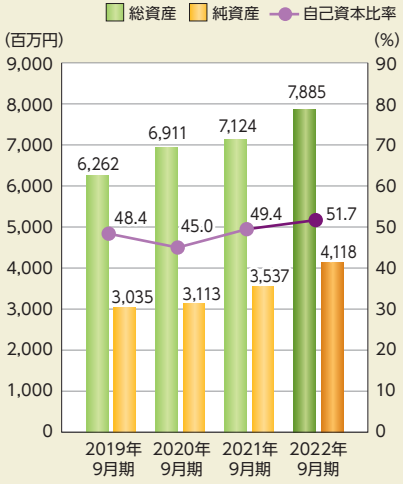
売上高



経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益



総資産、純資産、自己資本比率



連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	当期末（2022年9月30日）	前期末（2021年9月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,974	1,682
受取手形及び売掛金	431	449
棚卸資産	1,420	1,326
その他	426	225
固定資産		
有形固定資産	3,259	2,825
無形固定資産	34	33
投資その他の資産	339	581
資産合計 ❶	7,885	7,124

（単位：百万円）

	当期末（2022年9月30日）	前期末（2021年9月30日）
負債の部		
流動負債	2,185	2,408
固定負債	1,582	1,178
負債合計 ❷	3,767	3,587
純資産の部		
株主資本		
資本金	504	504
資本剰余金	366	360
利益剰余金	3,197	2,616
自己株式	△ 33	△ 41
その他の包括利益累計額	42	77
新株予約権	36	16
非支配株主持分	4	4
純資産合計	4,118	3,537
負債純資産合計	7,885	7,124

Point ❶ 前連結会計年度末に比べて760百万円増加し、7,885百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が291百万円、棚卸資産が93百万円、建物及び構築物（純額）が254百万円、建設仮勘定が128百万円増加したことです。

Point ❷ 前連結会計年度末に比べて179百万円増加し、3,767百万円となりました。
主な要因は、買掛金が30百万円、未払法人税等が110百万円、賞与引当金が21百万円、借入金地金が100百万円、長期未払金が40百万円増加し、借入金が118百万円減少したことです。

Point ❸ 営業活動によるキャッシュ・フローは、838百万円の収入となりました（前期は399百万円の収入）。
この主な内訳は、税金等調整前当期純利益が802百万円、減価償却費が232百万円、棚卸資産の増加額が93百万円、法人税等の支払額が63百万円です。

Point ❹ 投資活動によるキャッシュ・フローは、369百万円の支出となりました。（前期は279百万円の支出）。
この主な内訳は、有形固定資産の取得による支出が589百万円、その他（投資）の収入が229百万円です。

Point ❺ 財務活動によるキャッシュ・フローは、179百万円の支出となりました（前期は274百万円の支出）。
この主な内訳は、短期借入金の純減額が528百万円、長期借入金の返済による支出が92百万円、長期借入れによる収入が500百万円、配当金の支払額が40百万円です。

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当　期 （2021年10月1日～2022年9月30日）	前　期 （2020年10月1日～2021年9月30日）
売上高	8,592	8,070
売上原価	5,934	6,169
売上総利益	2,658	1,900
販売費及び一般管理費	1,842	1,481
営業利益	815	419
営業外収益	16	76
営業外費用	56	50
経常利益	776	445
特別利益	57	5
特別損失	31	25
税金等調整前当期純利益	802	425
法人税等合計	179	48
当期純利益	622	377
非支配株主に帰属する当期純損失（△）	△ 0	△ 0
親会社株主に帰属する当期純利益	622	377

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

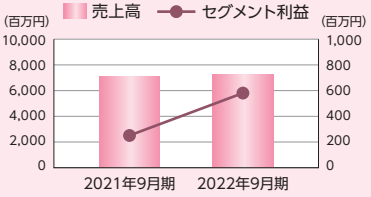
	当　期 （2021年10月1日～2022年9月30日）	前　期 （2020年10月1日～2021年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー ❸	838	399
投資活動によるキャッシュ・フロー ❹	△ 369	△ 279
財務活動によるキャッシュ・フロー ❺	△ 179	△ 274
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	1
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	291	△ 154
現金及び現金同等物の期首残高	1,054	1,220
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△ 11
現金及び現金同等物の期末残高	1,346	1,054

事業セグメントごとの状況

貴金属事業

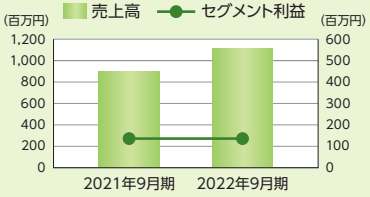
貴金属の取扱い数量は前期をやや下回りましたが、主要製品価格が前期を上回ったことにより、売上高は7,246百万円（対前期3.3%増）の増収となりました。

セグメント利益は主要製品価格が前期を上回ったことや、事業戦略の見直し実施により利益率改善が図られたことで、590百万円（同127.9%増）の増益となりました。



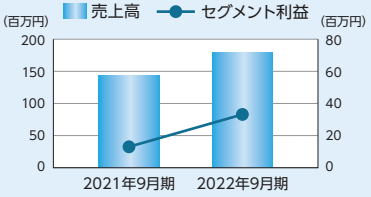
環境事業

銅の販売価格が前期を上回ったことに加え、主力製品である銅ペレット及び無機薬品の販売数量が増加したことで、売上高は1,148百万円（対前期27.9%増）、一過性の全社費用の増加によりセグメント利益は139百万円（同6.5%減）の増収減益となりました。



システム事業

注力してきた販促活動の効果により、主力製品である品質管理システムの販売が増加したことで、売上高は179百万円（対前期26.5%増）、セグメント利益は33百万円（同155.2%増）の増収増益となりました。



新代表取締役社長　山田浩太よりご挨拶

株主の皆様には、平素格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
2022年10月31日開催の取締役会において、代表取締役社長に就任いたしました山田浩太でございます。

就任にあたり、社是である「豊かな創造性を発揮し、社会貢献を果たす」を改めて掲げたいと思います。
新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻、それらに伴うエネルギー・資源、物流問題など、昨今の激しい環境変化により、社会的課題や私たちの価値観も変化を見せております。このような変化は持続可能な社会の実現へ貢献することの重要性をより一層高めるものです。
弊社事業を通じて自然環境の保全や資源の有効活用・再資源化という側面から「社会に貢献する」ことは弊社の不変の価値観であり、進んでいくべき道と確信しています。

現在、新たな事業の柱とすべく歩みを進めているリチウムイオン電池再生事業におきましても、資源の偏在性や枯渇の可能性、電池の廃棄処分方法など多くの課題が残されており、安定した資源循環プロセスを生み出すことにより、それら課題の解決に大きく貢献していきたいと考えております。

歴代の当社代表、特に山田会長から受け継いだこと、大学在学時代に培った経営学の知識を糧に、社是、理念の実現に向けて誠心誠意取り取り組んでいき、ステークホルダーの皆様と共に歩んでいきたいと考えております。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援・ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

Information （2022年9月30日現在）

会社概要

商号	株式会社アサカ理研
本社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセ口47番地
設立年月日	1969年8月25日
資本金	504,295,600円

事業内容

①貴金属事業／ 金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精製処理及び販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生及び販売

②環境事業／ 塩化第二鉄液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売

③システム事業／ 自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発及び販売

④その他の事業／ 工業薬品の運搬、廃液の収集運搬

役員

（2022年12月21日現在）

代表取締役会長	山田　慶太
代表取締役社長	山田　浩太
取締役	佐久間　良一
取締役	佐久間　幸雄
取締役	市川　文子
取締役(監査等委員長)	三崎　秀央
取締役(監査等委員)	髙野　俊哉
取締役(監査等委員)	遠藤　健太郎

(注) 取締役　市川文子氏、取締役(監査等委員)三崎秀央氏、髙野俊哉氏及び遠藤健太郎氏は、社外取締役であります。

株式の状況

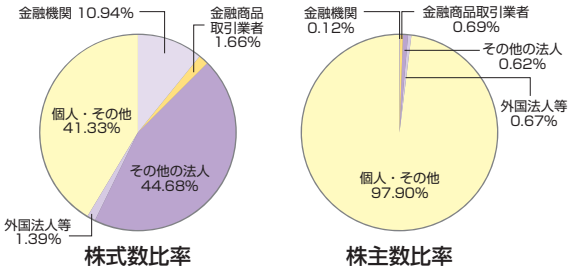
発行可能株式総数	20,400,000株
発行済株式総数	5,144,600株 （自己株式69,750株を含む）
株主数	4,184名

大株主の状況

株主名	所有株式数（株）	持株比率（%）
有限会社モラル･コーポレーション	2,102,060	41.42
白岩政一	209,400	4.13
株式会社常陽銀行	180,000	3.55
株式会社東邦銀行	162,200	3.20
日本生命保険相互会社	145,000	2.86
東京中小企業投資育成株式会社	100,000	1.97
アサカ理研社員持株会	55,748	1.10
日本証券金融株式会社	47,800	0.94
平田弘美	31,000	0.61
山田慶太	22,876	0.45

（注）当社は自己株式（69,750株）を保有しておりますが、議決権がないため、上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



（注）上記比率は、当社保有の自己株式（69,750株）を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
配当金受領 株主確定日	9月30日 なお、中間配当を実施するときは3月31日
定時株主総会	毎年12月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL:0120ー232ー711（通話料無料） 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部

特別口座の 口座管理機関	東京証券代行株式会社
同連絡先	東京証券代行株式会社　事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL:0120ー49ー7009（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL　https://www.asaka.co.jp/ ※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。

ご注意

（1）株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

（2）特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、東京証券代行が口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。

（3）未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

PICK UP!

みしらず柿

みしらず柿は会津地方で古くから栽培され、毎年皇室へ献上される福島県を代表する特産品です。漢字で「身不知柿」と表記される由来は、柿の木が折れてしまうほど多くの実をつけることから名付けられた説と、とても美味しいので我が身も考えず食べ過ぎてしまうことから名付けられた説があります。ビタミンC·カロテン·食物繊維等が多く含まれ「医者いらず」と言われるほど栄養価の高い果物です。

福島の旅が丸わかり!!　福島の旅　で検索

うつくしま観光プロモーション推進機構（公益財団法人福島県観光物産交流協会 内）
〒960-8053　福島県福島市三河南町1番20号（コラッセふくしま7階）
TEL：024-525-4024　FAX：024-525-4087